

○プログラム概要：

プログラムのポイントは3つあります。

① Online Live Sessions

- ・イギリスのファミリーや学生とリアルタイムで毎日交流を行います。
- ・アットホームな雰囲気でのオンライン交流で、時間を追うごとに現地との距離が縮まることを実感します。大人・大学生・高校生、さまざまな世代の人たちと毎日60分英語のみで会話し続け、英語を話すことに対しても自信をつけていきます。

② Speaking English with Native Teachers

- ・イギリスの文化や生活をテーマに、クイズや楽しいイベントが組み込まれています。インタラクティブ(参加型)なレッスンを通して、英語を学びながら身につけていきます。
- ・ネイティブ講師によるレッスンでは、「話す力」に重点を置きます。イギリスと日本の学校の比較や伝統料理、紅茶テイスティング、若者の流行やBBCニュース、イギリス王室の謎など、4日間述べ20コマ(1コマ60分)のレッスンを通して、生きた教材を用い、実践的な英語を学びます。

③ First Step to an International Education

- ・海外のことを学び、日本や自分のことを考える良いきっかけにします。プレゼンテーションやディベートにも挑戦し、将来に役立つスキルを身につけていきます。
- ・最終日に設定されたホストファミリーの前でのプレゼンテーション発表に向けてテーマを決め、原稿作成・話し方・発音指導など、プレゼンのスキルアップを目指します。

○各日の内容：

◆Day 1 --- 8月1日（月）

コロナ渦の中での新たな学びの形として、昨年度よりもさらにグレードアップしたEnglish Challenge Program (ECP)が始まりました。2019年度までは、Cheltenhamで行われていたプログラムですが、コロナのため実施することができず、今年度も国内開催となりました。朝の10:30～18:00まで行われたネイティブの先生によるオールイングリッシュのプログラムです。

午前中は、イギリスについて学んだ後、自己紹介の練習をしました。初めは少し緊張した様子を見せていましたが、少人数クラスでの英語の進行にも徐々に慣れてくるにつれ、お互いに英語で会話をする量が増えてきました。

午後は「日本の祭り」をテーマに、発表準備を行いました。これは最終日にホストファミリーの前で発表するプレゼンの材料となります。



そして1日目の最終セッションは、Zoomによる現地のホストファミリーとの交流です。画面越しにはなりませんが、ジェスチャーも交えながら英語で話す姿は、とても生き生きとしていました。3つのファミリーと交流し、英語でのコミュニケーションを楽しんでいました。



プログラム初日、「今から英語漬けた。ちゃんと話せるかな。」と言っていた生徒たちが、授業や交流を通して少し自信をつけた様子でした。

◆Day 2 --- 8月2日（火）

2日目の最初は、全体で昨日の振り返りをしました。「昨日はどの内容が1番楽しめた?」と先生から問われると、多くの生徒が「現地のホストファミリーとの交流」と答えていました。リアルタイムで交流をする経験は生徒にとっても新鮮で、とても充実していたようでした。

午前中は、イギリス発祥のスポーツや、イギリスと日本の学校の比較について学びました。自分たちの学校の制服について英語で話したり、学校を変えたとしたらどの部分を変えたいかを英語で話したりなど、積極的に英語で話す姿が見られました。

午後は、昨日準備を始めた「日本の祭り」のプレゼン準備と、イギリスの伝統料理について学びました。ティーテイスティングという授業では、実際にイギリスの紅茶を飲み比べたりもしました。



最後のライブセッションプログラムでは、学校交流をテーマに、現地のイギリス人学生とオンラインで交流をしました。初日はホストファミリーとの交流だったので、同年代の人との英語での交流では、話し方や話すスピードが全く違うことにも驚いていました。同じ目線で話ができることを楽しみ、最も盛り上がった1時間の交流でした。



◆Day 3 --- 8月3日（水）

3日目は現地の学生達がよく使うスラングやイギリスの若者の流行について知ることから始まりました。現地の学生からのビデオ紹介を通しての授業では、教科書や普段の授業からは学ぶことのできないことを知ることができました。その後は現地のイギリススコッツウォルズの魅力について学び、現地にいるような魅力を感じました。



最後のセッションでは、現地学生との交流を1時間行いました。今日のテーマは「流行のもの」と「週末の過ごし方」です。各自が持参した資料や写真等も使いながら、流行りの言葉や文化をお互いに紹介し合い英語でやりとりをする姿は、初日よりもより積極的でした。

英語漬けの日々も3日目となり、徐々に頭も耳も英語に慣れてきた様子が見られました。



◆Day 4 --- 8月4日（木）

最終日の1時間目は、BBCニュースに関するレッスンから始まりました。ニュースで流れる英語は、これまでのネイティブの先生やホストファミリーから聞いている英語の早さや単語の難易度が全く違い、驚いている生徒がたくさんいました。普段から少しずつ聞き慣れ、耳を英語に慣らすことの大切さを実感しました。



その後はイギリス王室についてクイズ形式で学んだり、校内を歩き回って謎解きチャレンジをしたりしました。今までのレッスンの内容を思い出しながら、これまで学んできたことを復習しました。

最後は、いよいよ本プログラムの大きな目玉である、ホストファミリーの前でプレゼンテーション発表です。多くのホストファミリーが「日本の祭り」についての発表を聞いてくれ、それぞれの発表に対しての質問も考えてくれました。英語で全て発表し、質問に答えることは難易度の高いものではありませんでしたが、これまでの英語集中授業を通して英語を使うことにも慣れ、全員が自信を持ってしっかりと取り組むことができました。



発表後は緊張が解けた様子で、笑顔で修了書をもらい、4日間のプログラムを終えました。





◆生徒の感想

- ・全ての授業が英語で行われ、毎日現地の方々と話をすることで、耳が英語に慣れていけたのが良かったと思います。
- ・少人数での英語の授業を受けることで、より積極的になれました。
- ・たくさんの人と話すことで、さまざまな個性の人と話すことになるので、適応能力が向上したと思います。
- ・グループで話す時に、日本語ではなく英語を積極的に使うことで、自分が言いたいことを相手に分かりやすく伝える練習を沢山することが出来ました。
- ・4日間を通して英語をととても身近に感じることができて楽しかったです。現地の方と気楽にお話することができ、とても良い経験になりました。
- ・どの授業もととても楽しかったです。特に交流が楽しかったです。住んでいる国や年齢が違ってもいろいろな話題で盛り上がることで良かったです。
- ・私が特に印象に残っているのはスラングについてのレッスンです。若い人たちの間ではある単語を別の意味で使っているというのがとても面白いと感じました。
- ・プログラムを終えて英語漬けの4日間だったと感じました。家でも間違えて家族に英語を話してしまうぐらい、今までで1番英語に触れた機会だと感じました。レッスンの内容をその後のライブセッションで現地の方に聞くことが出来たことが、とても良かったと思います。今回はイギリスに行くことが出来ませんでした。プログラムを通してイギリスの文化や歴史を知り、実際に現地へ行ったような気持ちになりました。

企画協力 CWA コッツウォルズ・ウインド・アカデミー（東京）